

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 —)

事業所番号	0692500051		
法人名	特定非営利法人やまなみ		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	山形県最上郡最上町向町5-10		
自己評価作成日	平成30年10月8日	開設年月日	平成22年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 今年の春、連続して2件の転倒骨折事故が発生したため、1年かけて、リスクマネジメントの職員学習会を始めた。
2. 家族会を今期1回開催したが、来期は複数回開催したい。
3. 引き続き、グループホームの特性・役割を自覚し、持っているノウハウを地域に展開していきたい(認知症カフェ、ホーム内コンサート、会報の発行等)

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 30年 11月 6日	評価結果決定日	平成 30年 11月 22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングの前面の窓から一面の蕎麦畑や陸羽東線の列車を眺め、日々季節の移ろいを感じられる環境の中で、利用者一人ひとりが今まで歩んできた人生を尊重し、住み慣れた地域で穏やかにその人らしい生活ができるように支援しています。母体のNPO法人と共に開催するコンサートや認知症カフェ「やまびこ」の昔語りなど、生活の中に芸術や文化を取り込み、楽しみや喜びを感じてもらっています。また地域との繋がりがりや同業者間のネットワークづくりも大切に活動してきたことが認められ、今年度日本認知症グループホーム協会全国大会で特別表彰を受け、更に意欲を高めている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」 2018年度 ※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	やまなみの理念を理解し、賛同し、それにそうよう努力している。	毎月の学習会で理念に込められた思いを振り返り、出勤時の挨拶や同じ目線で会話をする事など、行動の確認をしている。常に利用者へ寄り添い一人ひとりの意思を尊重し、安らぎや楽しみのある生活を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	カフェ、コンサート、いも煮会、まつり等に参加、又は招待し、積極的に地域の人々と交流している。	町内会の行事に参加したり、野菜や果物の差し入れもあり、地域とのつながりを大事にしている。隔月に開催する認知症カフェや母体の法人主催のコンサートには多くの客が来訪し利用者ともふれあい、事業所への理解を深めてもらう機会にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催したり、小学生を招いての七夕コンサートを行ったり、会報等で定期的に情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、地域や行政の方々の参加をいただき、こちらからも問題提起し、いろいろな意見をいただき、サービスの向上に活かしている。	様々な職種や活動をしている方々をメンバーに迎え、利用状況や活動報告と共に事前に案内したテーマで話し合いをしている。グループホームの基礎理念や取組みなどについて活発な意見が交わされ、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認知症カフェに地域包括支援センターの職員も参加してもらい、意見交換をしている。会報も定期的に届けている。	役場担当者には機会ある毎に実状を伝え理解してもらい、認知症カフェの案内配布や開催時の支援を依頼し協力を得ている。また利用状況を報告し、地域包括支援センターを通して入居者の紹介などもあり、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 1.衣類及び主たる職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	利用者さんの不安にできるだけ寄り添い、話を聞いたりしている。身体拘束廃止マニュアルを作成し、ケアを行っている。玄関にはカギをかけていません。	「身体拘束廃止マニュアル」に沿ってリスクや弊害を学び、家族の了解も得て身体拘束をしないケアを実践している。帰宅願望のある方には行動背景を理解し不安の解消を図り、さりげなく見守りながら抑圧のない暮らしを支えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会などを行い、虐待防止に努めている。人により、大きい声を出してしまうこともある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料や書籍等はそろえている。学習会を行なったこともあり、職員ミーティングで話し合ったこともある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用者の家族に、利用契約書、重要事項説明書、運営規定を読み上げ、説明して契約している。解約の際は、家族の希望を入れ、話し合いを充分にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、なるべく話しをするようにしている。意見などがある時は、ミーティングや申し送りなどで情報を共有している。	入居時の聞き取りや家族会での会話、面会時などに意見や要望を聞き、取り組みに活かしている。毎月の「おたより」で一人ひとりの暮らしの様子を伝えて家族からは感謝の言葉が多く聞かれている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員ミーティングを行い、情報を共有し、意見を出し合っている。時には流されてしまうこともある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	重度の方が増えているため、時間外になることも多々ある。休憩時間がなかなか取れない。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員学習会を行なっている。外部研修、講演会等に参加し、学習する機会を作っていただいている。	職員を県内外の外部研修会に派遣し、学びの機会を多く設け、内部学習会は必要とする課題を適時に研修し、ケアの質向上を図っている。また職員の負担軽減の工夫や報酬の見直しで、働きやすい環境づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	2ヶ月に1回開催している最上地区GH連絡会(7事業所)や、県境をはさんだ宮城県大崎市のGHとコンサートやイベントで相互交流している。	山形県グループホーム連絡協議会や日本認知症グループホーム協会に加入し県内外の事業所や団体とのネットワークを築き、牽引する立場として活動している。町内や隣接する他県の事業所と情報交換をしたり事業の共同開催なども呼びかけている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	就寝前、1対1になり、不安や要望等を親身に話を聞く、申し送りで情報を共有している。もう少し利用者さんと話しをする時間がほしい。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の様子や入所後の様子などを報告し、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族への要望を聞き、介護計画に何が必要かの見極め、よく観察し、職員同士で情報を交換し、よりよいサービスに努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、袋たたみ、野菜もぎなどを手伝ってもらったり、一緒にしている。職員が利用者に甘えたり、相談するなどして、家族のような関係を作っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された際、話しをしながら関係を作ったり、月1回の家族向けおたよりでホームの生活の様子を伝えている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散髪する時は、なじみの床屋さんに来ていただいたり、ホームでのイベントの時は招待している。天気の良い日はドライブも行く。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置に気を使っている。利用者さん同士楽しく話し合っている場面がある。介護者はたえず、目配り、気配りしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議のメンバーになっていただいている家族もいる。他施設に移った利用者さんのその後を見学に行ったりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本を読んだり、テレビを見たり、音楽を聴いたりして生活しているが、介護者の業務もあり、十分なサービスができない時もある。	家族からの聞き取りと日々の言葉や表情から思いを推し測り、出来ることは何でもやってもらっている。家事などで能力を発揮し、職員からの「ありがとう」の言葉に喜びの表情が見られている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前に家族から聞き取りをしたり、今までの生活状況や生活歴を聞いて、ケアカンファレンスで情報を共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕にバイタルを測定し、会話をしながら把握し、サービスにつなげている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や、カンファレンス、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護計画反映し、サービスにつなげている。	介護計画作成や変更時には家族に来訪してもらい現状を説明し、本人の希望を最優先に、家族の意見も取り込んでいる。現状の観察や支援内容の検討は全職員の意見を反映し、「健康で穏やかに過ごしたい」など一人ひとりの意向に沿った計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや日誌に記録して、職員間で情報を共有している。最近、抜けていることがたまに出る。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームで行うコンサートに招待したり、まつり、芋煮会等に参加している。ボランティアの力を借りて、豊かに暮らせるように努力している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の病院、開業医に家族の希望で、通院、訪問診療を受け、医師の支援を受けている。	通院には家族が付き添い状況に応じて職員が対応している。受診時の情報と結果は家族や職員で共有し、かかりつけ医との連携を密にして、看護師の定期的な訪問もあり医療体制を整えている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師の訪問時に適切な指示、アドバイスをいただいたり、相談している。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合、病院と話し合ったり、必要に応じて、家族、病院、ホームの三者で話し合う。入院が長くなる場合、家族とよく話し合いを行い、支援している。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を職員で学習したり、家族へのアンケートを早い段階と終末期の2回実施し、家族全員の意向を把握し、支援している。特養への申し込みも支援している。	「看取りと重症化に関する指針」を策定し、入居時に終末期の具体的な対応を盛り込んだアンケートを実施して意向を把握している。職員は研修を重ね医療機関との連携を図り尊厳ある人生の最終章を迎えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や、事故防止マニュアルには目を通して いる。AEDの使い方などを定期的に行っている が、夜勤時は不安だ。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を全職員 が身につけるとともに、地域との協力体制 を築いている	年2回、夜勤の火災を想定した避難訓練を行って いるが、災害時の訓練は行っていない。マニュアル 作りにとりかかったところだ。	「非常災害対策計画」で地震・火災マ ニュアルを作成し、火災を想定した避難 訓練を実施している。母体のNPO法人 との連携や地域からも協力を得ている。	想定外の災害を考慮し、地震を想定し た避難の方法や安全を確認するなどの 体制づくりに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプ ライバシーを損ねない言葉かけや対応をし ている	言葉づかいや接し方に気をつけ対応している。	人生の先輩という気持ちを忘れず、人 格を尊重し、一人ひとりの生活習慣に 合わせた支援をしている。「おたより」な どに名前を出す場合は本人や家族の 了解を得て、また届いた手紙は開封せ ず本人に直接渡すなど、プライバシー に配慮している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表し たり、自己決定できるように働きかけて いる	本人の思いや希望に耳を傾ける努力はしている が、希望通りにならないこともある。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、 その日をどのように過ごしたいか、希望 にそって支援している	やりたくない、行たくないという声を聞くことがありま す。無理に誘わないようにして、やりたい事をさせ てやる。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援している	季節に合った服装や身だしなみは支援している。 起床後、髪を整えたり、床屋さんは出張してもらっ ている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひ とりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをし ている	好みの物を伺ったり、季節の食材を準備して、楽し い食事を心がけている。職員で献立を作っている。	食事には特に力を入れて、毎食利用者 に手伝ってもらいながら調理し職員も会 話しながら一緒に食べている。もちや山 菜など季節のメニューを取り入れ日々 の楽しみとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分量の摂取を記録し、個人、人により、キザミ食、ミキサー食、塩分調整などを行っている。献立のバランスを工夫している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、夕食後は義歯を洗浄している。スポンジで口腔ケアの人もいる。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレチェック表(24時間)をつけ、個々のパターンを把握している。起床、食前、食後に声かけをしたりしている。	トイレチェック表で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない誘導でトイレでの排泄に繋げている。状況に応じて排泄用品を工夫し声掛けでレベルアップした方もいる。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳、ヨーグルトを摂取している。時にはお腹のマッサージを行っている。排泄表を見て、下剤、坐薬などを使用し、予防に努めている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日中、3人ずつ入浴している。いやがる人には無理をせず、柔軟に対応している。午前中に入浴している。個々に応じた入浴は行っていない。	利用者には日中ゆっくり入浴してもらっている。拒否の方には下着交換や清拭などを行い、またふらつきのある方や浴槽を跨げない方にはシャワー浴で清潔に生活できるように対応している。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時は安全のため、センサーを使用している。認知症が進んだ人に安心して眠れるよう支援しているが、対応が難しくなっている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、本人の飲み込みまで確認している。薬が変わった時や症状が変わった時などは全体用に書いてもらい、職員が確認して捺印する。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや外食など気分転換できるよう支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	催し物や家族との外食などに出掛けられるように支援している。最近紙芝居を数種類購入し、楽しんでいる	花見や紅葉狩りなど四季折々の外出で、日差しや風を感じてもらい気分転換を図っている。外食も頻繁に行い回転すし店に行ったり、少人数にわけてドライブをしながらの外食は特に喜ばれている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が進み、お金の使い方が出来なくなってきた。本人の希望により、買い物支援はできるようになっているが…			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日のように家族に電話してくれと要求があるが、自ら電話したい方もいる。手紙を書くことは困難になってきている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から季節を感じられる。掃除は毎日行っているのので心地よく過ごせていると思う。室温調整は個々に感じ方が違うので、難しいところもある。	大きな窓から一面のそば畑や遠くの山並みを見ながら穏やかな時を過ごしている。利用者同士の関係も考慮しながら席を配置し、一人ひとりゆっくり快適に過ごせるようにしている。認知症カフェやコンサートの際には来客と交流し楽しい時間となっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とおしゃべりを楽しんでいる人もいる。1人になりたい時は自室で過ごしたり、ソファーやたたみのイスに移動している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物や写真を飾ったり、自由に整理整頓できるようにしている。	全室介護ベッドが備えてあり、自宅で使用していたなじみのものを使用し、快適に過ごせるようしている。柱など角のある部分にはクッション材を使用し、安全面にも配慮している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや柱、角にはカバーをしている。トイレの場所がわからなくなる人には、張り紙をして、自力でやれるように支援している。		